

著作権に関する注意

本校の入試問題は著作権の対象となっており、著作権法で保護されています。
「私的使用のための複製」や「引用」など著作権法上認められた場合を除き、無断で複製・転用することはできません。

お断り

本校の入試問題中で引用した文章・文献等について、著作物保護の観点から一部掲載を控えた箇所があります。ご了承ください。

二〇二三年（令和五）年度

東北学院高等学校入学試験問題

〈一般 B日程〉

国語

二〇二三年（令和五）年二月二日（木）

九時～九時五十分（五十分間）

注意事項

- 一. 受験番号・氏名を解答用紙にはっきり記入しなさい。
- 二. 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 三. 解答用紙だけを提出しなさい。

一 次の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問いに答えなさい。

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

【文章Ⅱ】

著作物保護のため掲載を控えます

(與那覇 潤『過剰可視化社会』より)

著作物保護のため掲載を控えます

(稲田豊史『映画を早送りで見ている人たち』より)

問一 ――部(1)「ローコンテキスト」とはどのような意味だと考えられますか。それがわかる箇所を【文章Ⅰ】から十字で抜き出して答えなさい。(ただし、句読点、記号は字数に含みません。)

問二 ――部(2)「とりあえず『ヤバイ』と言っておけば、相手を不快にすることはない」について、それはなぜですか。その説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ヤバイ」をネガティブな意味で理解していた世代の「課長」にも、ポジティブな意味が広まってきているから。
イ 若者が「ヤバイ」という言葉を使う時には、ポジティブな意味での評価であることが一般的だから。
ウ 「ヤバイ」と言われた人から意図を問われても、新しいポジティブな意味で言ったと弁解することができるから。
エ ポジティブな意味とネガティブな意味の両方を持つ語を使うことで、賛否のどちらであるかを明示せずに済むから。
オ 摩擦や対立を避ける若者が使う言葉は、常にネガティブな意味を薄めて使われるものだから。

問三 ――部「やさしさ」とは、どのような「やさしさ」ですか。【文章Ⅰ】の語句を用いて五十字以内で説明しなさい。(ただし、句読点も一字とします。)

問四 次の会話は、この文章を読んだ二人の話し合いです。

X	・	Y
---	---	---

 に入れるのにふさわしい語句を、()内の指示に従って【文章Ⅱ】から抜き出して答えなさい。

A 映像作品の倍速視聴について、【文章Ⅰ】で紹介されている稲田さんの本を参照してみたよ(【文章Ⅱ】)。この中の、LINEグループについての指摘がとも興味深いと思ったよ。

B なるほど。「自分だけ『見ていない』とは言いたくない」気持ちについて、【文章Ⅰ】とは違った指摘がなされているね。【文章Ⅱ】によれば、話題に反応できないということは、

X

(十字程度)という態度だと受け取られてしまう恐れがあるんだね。

A そう。もし、同じ「やさしさ」という観点で言うならば、【文章Ⅱ】の方は、できるだけ話題に共感を示すことで

Y

(十字程度)という意味での「やさしさ」になると思うよ。

問五 【文章Ⅰ】および【文章Ⅱ】について説明した次のア～オの中から、誤っているものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 【文章Ⅰ】では、ファスト動画の流行や若者言葉の使い方、SNSとの付き合い方の根底にある不安について指摘し、目に見えない部分での相互の信頼関係を築く必要性が説かれている。

イ 【文章Ⅰ】では、人間関係のすべてを文字で可視化することの限界が指摘され、絵文字やスタンプなどの技術によって相互の信頼感を取り戻す可能性を論じている。

ウ 【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】のどちらも、映像作品の高速視聴について触れているが、なぜ若者にそのような傾向が見られるかについて、異なる分析がなされている。

エ 【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】のどちらも、若者のSNS使用のあり方について触れており、SNSに常時接続している状態がもたらす若者の不安が指摘されている。

オ 【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】のどちらも、「既読」が必ずしも自分の意図通りの反応をもたらさないことを指摘し、対面でのコミュニケーションの優位性を説いている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部本文を改めたところがあります。)

「私」は姉の景子から、温泉によるリラクゼーション効果が得られ、美食を堪能できると強引に旅行への参加をさせられた。旅先で景子から、この旅行は両親の仲直りのために企画したのだと告げられた。

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

(森 絵都 『永遠の出口』より)

問一 〓部A「青天の霹靂」、B「一も二もなく」、C「後ろ髪を引かれつつ」の文中での意味として最も適切なものを後のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|-----------|---------------------|------------|-------------|
| A 「青天の霹靂」 | | B 「一も二もなく」 | |
| ア | 事前に予測可能で十分に理解できる事柄 | ア | 後先を考えず |
| イ | 非常にうれしく心弾む喜ばしい事態 | イ | あれこれ言うまでもなく |
| ウ | まったく予期しなかった突然の出来事 | ウ | 思い切って |
| エ | とてもつらく対処の方法がわからない現実 | エ | 結果を熟慮して |
| オ | 人として行ってはならない恥ずべきこと | オ | 不安を押し殺して |

- C 「後ろ髪を引かれつつ」
- | | |
|---|----------|
| ア | 見捨てたままで |
| イ | 印象を引きずって |
| ウ | 置き去りにした後 |
| エ | 面影を感じながら |
| オ | 未練が残りながら |

問二 〓部(1)「いやもちろん、高校受験を控えた紀子の気晴らしにもなればと思っ」について、「父」が娘たちのことを気遣う理由を示す一文を父の発言の中から探し、始めの五文字を書き抜きなさい。(ただし、句読点も一字とします。)

問三 〓部(2)「私は急に泣きたいような笑いたいような衝動にとりつかれた」について、状況を次のようにまとめるとき、

Y に入る言葉を()内の指示に従って答えなさい。

今回の旅行は姉が X (文中の表現を用いて七字で) のために企画したのだが、父親が Y (文中の表現を用いて十字程度で) 実
現させたものであることがわかり、私はひどく驚きどうしたらよいかわからなくなった。

問四 ———部(3)「日常を司る母は強い」について、「私」がこのように考える理由を文中の表現を用いて四十字以内で説明しなさい。(ただし、句読点も一字とします。)

問五 ———部(4)「紀ちゃんは永遠に知らないままなんだよ」について、この時の姉の心の中の思いを説明したものとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 真面目な父親がまさか浮気をして母親を泣かせていたなどとは妹は想像もできないだろうということ。
- イ 高校卒業後恋人と同棲しようという願いが叶かなわなかったとは妹は思いもよらないだろうということ。
- ウ 愛することは楽しくもありつらくもあるという人の真実を妹はまだ理解できないだろうということ。
- エ 母となることで家族を最優先する力強さが備わることについて妹は実感できないだろうということ。
- オ 姉として家族を気遣う姿勢を持たなければならないことを妹は決して理解できないだろうということ。

問六 次の会話は、この文章におけるもみじの描写(~~~~~部I~V)について、生徒たちが話し合ったものです。この中で、本文の理解として適切でないものを一つ選び、アルファベット(A~E)で答えなさい。

- A この小説は全体を通してもみじの描写が散りばめられているね。最初の場面にあるIの「落ち葉」は、思い切って好きな道を生きようとして夢破れた景子の姿と重ね合わせることができるかもしれないね。
- B 確かにそうだね。「落ち葉」には寂しいイメージがあるから私もそれには納得できる。また、IIにあるように、一度は拾い上げた落ち葉がまた地面に落ちてしまう描写には、景子を救ってやりたくてもどうしていいかわからない父のやるせなさが表されているように感じる。
- C IVの表現はどうかね。この直後で、景子が雌薬にたとえられているけれど、雄薬の存在が書かれていないんだよね。この箇所は、失恋の孤独から立ち直れずにいる景子の姿を表現していると思うけどどうだろう。
- D 私は、この小説でのみみじは家族の絆の象徴にもなっているように感じたよ。IIIの表現からは、困難があっても親子がこれからもつながり続けていくことが読み取れるんじゃないかな。
- E そのことはVの表現からも読み取れるね。IIIの直後にある「風」というのが、本文の後半で明らかにされる、家族内の様々な「ろくでもなさ」を象徴的に表しているのかもしれないね。

三

次の和歌二首は、いずれも春の夜の「朧おぼろ月つきよ」(春の夜に月がほのかに霞かすみんでいる情景)の美しさを詠よんだものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

守覚しゆかく法親王ほっしんのう家五十首歌に

① 藤原定家朝臣あそん

おほぞらは梅のほひにかすみつくもりもはてぬ春の夜の月(A)

※文集嘉陵春夜詩に、不明不暗朧朧月といへることを、

よみ侍りける

大江千里

照りもせずくもりもはてぬ春の夜のおぼる月夜にしくものぞなき(B)

※白氏文集はくしもんじゆにある「嘉陵かりやうの春の夜の詩」の、「不明不暗朧朧月」という句を和歌に詠んだ、の意味。

問一 次の鑑賞文の X Y に当てはまる語句を、和歌の中から抜き出して答えなさい。

Aの和歌は、Bの和歌をもとにして、そこに新たな趣向を加え、作品に奥行きを持たせる「本歌取り」という技法を用いている。二首とも、同じく春の夜の月の情景を読んでいるが、Aは X という一句を取り入れることで、Bの和歌を用いていることをほのめかしている。さらにそこに Y を読み込んで、視覚だけにとどまらない豊かなイメージを作り出し、Bの和歌に詠まれた「しくものぞなき(及ぶものはない)」の理由を細やかに表現している。

問二 A、Bの二首は、①の人物らが選んだ勅撰和歌集に収められている。その和歌集の名称を答えなさい。

四

①～⑤の——部のカタカナを漢字に直し、⑥～⑩の——部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- | | | | |
|---|------------|---|-----------|
| ① | 牛乳ビンのふた。 | ⑥ | 半生を顧みる。 |
| ② | イキドオリを感じる。 | ⑦ | 基本的人権の享有。 |
| ③ | 絵の具をヌる。 | ⑧ | 寒心に堪えない。 |
| ④ | のどがカワく。 | ⑨ | 拙劣な文章。 |
| ⑤ | コンタンを見抜く。 | ⑩ | 新機能を搭載する。 |

